

# 中小企業景況調査結果

【平成30年7月～9月】

富士商工会議所調べ

## ◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。  
製造・建設・卸売・小売・サービス業の5産業、200事業所(回収率66.8%)を対象に、  
「平成30年7月～9月」までの3ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別にまとめた。

### DI(景気動向指数)とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、  
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前期…30年4月～6月 今期…30年7月～9月 来期…30年10月～12月

表中の矢印=5ポイント以上の推移を上下矢印で表し、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

## ◇ 今期調査の概況 ◇

主要DI	前回調査		今期調査 (前年同期)		来期予測
業況	▲18.4	↗	▲12.0 (▲14.2)	→	▲8.6
売上	▲4.4	↗	1.5 (▲0.7)	↗	9.9
採算	▲26.3	↗	▲14.4 (▲17.7)	↗	▲3.8

今期調査では、全産業合計の業況・売上・採算DIともに弱含みながら上昇となった。来期予測については、全産業合計の売上・採算DIは上昇、業況DIは横ばいの見込みとなった。

主要DIを産業別にみると、前期小売業の主要DIは全て下降であったが、今期は全てゆるやかな上昇となった。来期においても業況・売上・採算DIは全て上昇を予測。一方、小売業、サービス業でのコメントで今夏は猛暑や度重なる台風等で来店客数の減少、売上高の減少が多く、特に飲食業への影響が顕著であったが、SNS・インターネットを利用し集客・売上アップに繋げているという店舗のコメントもあった。

また、米国と中国の関税問題の影響を危惧する声が製造業、卸売業で目立っており、既に輸出入に影響があるとの回答もあった。

経営上の問題点では、製造業・卸売業で「商品、原材料仕入れ価格の上昇」が順位を上げており、建設業は「人材不足」、小売業は「売上減に伴う利益減」サービス業では「設備老朽化」がそれぞれ1位となっている。

◇ 全産業の動き ◇

**〔業況のDI〕** 建設業、小売業、サービス業は上昇。卸売業は横ばい。製造業は下降。  
来期は、小売業、サービス業は上昇を予想。建設業、卸売業は横ばいを予想。製造業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲5.4	↘	▲17.5 (0.0)	↘	▲22.5
建設業	0.0	↗	17.9 (0.0)	→	17.9
卸売業	▲14.3	→	▲14.3 (▲8.7)	→	▲11.1
小売業	▲40.0	↗	▲33.3 (▲50.0)	↗	▲13.3
サービス業	▲40.0	↗	▲20.7 (▲29.2)	↗	▲11.1
全産業	▲18.4	↗	▲12.0 (▲14.2)	→	▲8.6

**〔売上高のDI〕** 建設業、小売業は上昇。製造業、サービス業は横ばい。卸売業は下降。  
来期は、卸売業、小売業、サービス業は上昇。製造業は横ばい。建設業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	0.0	→	2.6 (12.9)	→	2.5
建設業	17.9	↗	39.3 (13.8)	↘	3.6
卸売業	▲4.8	↘	▲19.1 (4.3)	↗	23.9
小売業	▲33.4	↗	▲20.0 (▲35.0)	↗	13.3
サービス業	▲10.4	→	▲10.7 (▲16.6)	↗	14.8
全産業	▲4.4	↗	1.5 (▲0.7)	↗	9.9

**〔採算のDI〕** 製造業、建設業、卸売業、小売業は上昇。サービス業は横ばい。  
来期は、製造業、卸売業、小売業、サービス業は上昇。建設業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲37.9	↗	▲25.6 (▲10.3)	↗	▲15.0
建設業	▲10.7	↗	7.2 (▲6.9)	↘	▲3.6
卸売業	▲23.8	↗	▲14.3 (▲13.0)	↗	0.0
小売業	▲42.8	↗	▲13.3 (▲50.0)	↗	0.0
サービス業	▲16.7	→	▲20.7 (▲20.8)	↗	7.4
全産業	▲26.3	↗	▲14.4 (▲17.7)	↗	▲3.8

## ◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

### 【製 造 業】 景気ムード…【低 調】

『製紙』…「大手家庭紙製造工場の増設に伴い供給過剰。今後は大手の輸入ティッシュの価格次第。」「パルプ、古紙共に高止まりで厳しい。」との声。「市場の縮小、人員不足により現状の保持が課題。今後の人口減少と構造変化(紙離れ)に伴い、より苦戦の予測。」とのコメント。

『紙加工』…「おむつ・ペットシート市場は、大きな変動はなし。」「一部好調な分野もあるが、全体的には減少傾向にあると思われる。様々な状況がある中で先が読めない。」との声。「原材料のコスト増が続くと経営環境も変わる。」「家庭紙は比較的安定している。」一方「過度の設備投資の影響で需給バランスが崩れる可能性がある。」との声。

『機械器具』…「富士地区を中心とした静岡県内の需要が低下している。愛知県・三重県・岐阜県の市場開拓に尽力し増収したい。」「一部地域での増産はあるが、今期に於いては災害等による休止が目立つ。来期の国内需要も不安が残る。あまり良い見通しとは言えない。」との声。「国内のトラック需要は停滞しつつあるが、輸出は好調。」一方「労働力不足のため、生産が間に合わず注文を断らざるを得ない状況であるが、外国人労働者では対応が難しい。」とのこと。「自動車部品は低調に推移しており、来期(12月)までは期待できない。工作機械部品等は、順調に受注はあるが電力・ガス・石油価格の高騰で採算は下降ぎみになる。米中間の関税問題の影響が懸念される。」「中核取引先の販売不振により、大幅な受注減となる。元の状態に戻ることは考えにくく、先行きは不透明。」との声。「現状は好調だが、2019年以降マーケットが変貌し、自動車業界に大きな変動があるのではないかと不安材料も多いため多角化を進めたい。」との声。「金型メーカーは好況であるが、業界全体としては中部・関東地域の金型仕事量が減少している。米中間の関税問題が我が国に対する自動車関税に影響しないか危惧される。」「自動車業界では生産(金型)がひと段落し、スズキ・トヨタでは全体量が減少。新規事業を立上げ、新規顧客を取り込む。」「消費税の駆け込み需要が始まっている。」「生産部門は人員不足で、秋に向けて増産体制に対処するため、外国人労働者の受け入れを検討。」との声。

『機械部品加工』…「主要顧客の板金機械メーカーの動向は、各機種共に全般的に生産を増やしており、国内向け海外向け共に順調に推移している。」との声。

『食料品・飲料』…「地域、同業種に於いて二極化が一層拡大しているように感じる。景気の回復基調が伝えられるが、恩恵は大企業中心となり、中小企業は景気の実感が伴いにくいことが懸念される。行政が、地域の中小・零細企業の存在・継承を真剣に考えるのであれば、官・民・地域・金融機関が一体となり対策に取り組むべきではないか。公的支援、協力が不可欠に思う。」との意見。

「荒茶価格が昨年より多少下降しているが、小売りは好調。原油価格高騰のため、製造コストが上昇。」「酷暑で冷茶の売上は上昇。冬に向けてリーフ茶の需要増が見込まれる。」とのこと。「原材料の仕入価格が上昇しているが、販売価格に反映できず、厳しい状況。繁忙期に向け売上は多少期待できるが、人手不足が大きな課題である。」とのコメント。

『その他』…「国際情勢が不安定な中、経済面での米中の対立が目立っており、世界経済に悪影響を及ぼす事が危惧される。」「大企業と中小企業の賃金の格差がいつそう広がり、社会環境が変化してきている。2019年に消費税増税となると、一般消費者の生活は更に厳しさを増す。」との声も。

	好転%	不変%	悪化%	今期DI	来期予測
業 況	5.0	72.5	22.5	▲17.5	下 降
売上高	23.1	56.4	20.5	2.6	横ばい
採 算	10.3	53.8	35.9	▲25.6	上 昇

## 【建設業】 景気ムード…【安定】

『総合建設』…「技術職・職人の高齢化により、労働生産性が伸び悩んでいる。人員、人材不足の対処法が見えない。」との声。「民間の設備投資がまだ活発化しておらず、価格も抑えられている。官庁工事については、ある程度発注があるものの少額物件が多く、また資材価格も上昇傾向なため、利益確保が難しい物件が多数。」「売上悪化。今後の見通しについても非常に悪い状況。」「公共工事の減少と一般工事の競争激化により売上高・粗利益ともに悪化している。」「一般工事に於いては、市外業者が入札に参加し、価格競争の要因となっている。」とのこと。「今後、消費税増税に伴い駆け込み需要が見込まれる。」とのコメント。

『建設関連』…「人手不足により生産性が上がらないが、受注はある。」「猛暑の影響でエアコン・空調機の需要大。省エネ補助金事業での投資は一段落したが、学校空調への投資が増え、今後に期待したい。」との声。「仕事量はあるが単価が安く、利益が伴わない状況。」「建設業全体は、順調に推移しているようだが、一部名古屋方面で既に受注の先行きが不安視されているとの話を大手メーカーから聞いた。年内は仕事が堅調だが、来年以降は不透明。」「大手企業の設備投資が増加傾向の様相」との情報。「看板・イベント関連については順調。地鎮祭・竣工式が多数あり、受注は昨年並みだが、イベントは日程が重なるものが多い。」との声。

『土木関連』…「一般企業の需要が低迷している。販売価格値上げは難しい。来期は需要が低下していく模様。」「来期くらいまでは、オリンピック関連の仕事が確保できているが、それ以後は不明で不安。」造園土木では、「人員不足、応募が全くなし。」「公共工事がたまに出ても低価格競争で少額の差で思うように落札できない。」「富士市発注工事は若干増加傾向。土木・建築等と一括発注の植栽工事は、造園業者への下請発注が多かったが、最近、下請けに出さず自社施工が増えている様子。」「個人邸の庭園工事は今後増加が見込めないため、大型の庭園樹は流通が減少する模様。」との声。

『一般住宅』…「職人の高齢化が進み、跡を継ぐ技術者も減少傾向。当社では女性の技術系新入社員を雇用した。受注は増え好調。」「消費税増税後の落ち込みが心配される。」との声。

『その他』…「建設業界では相変わらず技術者不足の声を聞く。人材確保の、補助金制度を増やして欲しい」との要望。「台風及び長雨・集中豪雨が多く、傾斜地の地滑り等の発生が各地で起きているが、太陽光発電設置目的で盛り土・山林伐採等が市内北部で行われている。行政は適正なルールづくりを早急に行うべきではないか。」とのコメント。

	好転%	不変%	悪化%	今期DI	来期予測
業況	25.0	67.9	7.1	17.9	横ばい
売上高	46.4	46.4	7.1	39.3	下降
採算	28.6	50.0	21.4	7.2	下降

## 【卸売業】 景気ムード…【低調】

『機械器具』…「人件費及び物流コスト増大を理由に仕入価格が上昇。また納期遅延のメーカーも多く、解消できずに各地でトラブルが発生している模様。」「7～8月は国内新車の販売が2.5～3.5%上昇、下取り車の整備需要や事故による車体部品も増え売上が上昇。国内景気が上向いているので、しばらくは売上の伸びが見込まれるが、米国の政策により長期的には景気の見通しができない。」との声。「今期に起きた災害の影響が心配。仕入商品の納品遅延や価格高騰が懸念される。」「家庭紙・板紙関連は堅調と思われるが、洋紙については厳しい状況が続く。大手製紙会社の一部停機が地元経済にどれほどの影響があるか見極める必要がある。」とのコメント。

『紙』…「原料の値上げ分を販売価格に転嫁し難い状況が続いている。価格交渉は11月末まで掛る模様。運賃や諸経費なども上昇しており、価格改定が満額達成できるかが鍵になる。」「紙のまちとして発展してきた富士市だが、後継者問題などで衰退していかないか懸念される。」との声。

『製紙原料』…「輸出動向（特に中国向け）に影響を受ける状況に変化はない。中国がアメリカへの報復関税として古紙に25%の輸入関税を掛けた影響が出始め、日本製品へのオファーが強まり、価格は強含みで推移している。」「輸出価格が再び上昇する中、国内メーカーがどの程度の価格対応が出来るのか予断を許さない。製品価格への転嫁がポイントにもなる。」「量産可能な分野は、ますます価格競争に陥るが、専門的分野で競争力をつけているところは、伸びていくことが可能なのかもしれない。他の分野との融合性が取れるかがキーワードとなる。」とのコメント。

『再生資源』…「米中間の関税問題の影響、更に中国の環境規制により最大消費国の中国への輸出が出来ない。国内需要は伸びているが長続きしない。」「今後の見通しとして、米中貿易摩擦の行方と中国経済の立て直しがカギとなる。」と回答。「鉄鋼製品の市況は、2020年オリンピック需要・マンション建設が好調で、久しぶりの値上げが進んでいる。原料であるスクラップ価格は、製品の好調により高水準である。非鉄スクラップ価格は下落傾向である。要因として中国の輸入制限があると思われる。今後、トルコ通貨の急落により、スクラップ価格の下落が危惧される。」との声。

『工業薬品』…「年末の繁忙期に入るため、生産増が期待できる。家庭紙の値上げが浸透すれば薬品等の値上げも見込める。」とのこと。「原材料運賃価格の上昇が続いているので、どのような形で対応するか各企業の経営判断によるものと思われる。」「ナフサ原油価格により化学品価格に影響されるので、引続き年初からの価格訂正が実施されるのではないかと思う。」「家庭紙業界は冬以降、増産方向に進むので過剰供給による価格下落が心配される。」とのコメント。

『その他』…「富士山紙フェアの隔年開催は残念である。」との声。「将来起こりうる災害への対応は行政が地域に合わせた独自の発想を進めることを望むが、今一つ鈍い気がする」という意見。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	14.3	57.1	28.6	▲14.3	横ばい
売上高	23.8	33.3	42.9	▲19.1	上昇
採算	14.3	57.1	28.6	▲14.3	上昇

## 【小売業】 景気ムード…【厳しい状況】

『衣料品』…「今期は猛暑のため、来店客数が激減した。」「秋らしい気候になれば、寒さに向かって多少は期待できるのかもしれない。」との声。「着物業界では冠婚葬祭・七五三・成人式はレンタル比率が80~90%となり、実売が激減している。」とのコメント。

『各種食料品』…菓子では「新商品アイデアの創出に努めたい。今後の見通しは不透明で不安。」一方「景気の回復により売上也順調。夏に行った体験イベントも好調で、誘客ができた。来期も新規出店により売上の増加が見込まれる。SNSにより出店情報が出回り、既存店への好影響もあるようだ。」「ネット販売が好調であるため、設備投資をして売上げ上昇に繋げていきたい。」との声。茶では「特に高級品の需要が減少。」とのコメント。

『日用品・雑貨』…「昨年度好調であったTVゲームの反動から小売店の売上高は厳しいと聞いている。今後は、現在開発中のオリジナル商品の拡販に努めたい。」とのコメント。

『自動車』…「メーカー各社ではダウンサイジング(モノのサイズを縮小)を一転させ、排気量拡大の動きが広まっている。実走行に近い測定モードの導入が進んだ結果、ダウンサイジングターボでカタログ燃費を確保するのが難しい状況となったため、1~6月期の生産は、2年連続プラスで販売好調。輸出も堅調。」今後について「2019年10月の消費税増税に合わせて、車体課税の抜本的見直しが検討されており、実現すれば恒久的な減税を通じてユーザー負担が軽減される。」「国土交通省は、自動車保有関係手続の完全電子化に向けた検討を始める。運輸支局に出向かなくても全ての手続きを完了することを可能にする。」との情報。

『自転車』…「例年この時期は、各メーカーが新モデルを発表する。クリスマスに向けて売上を伸ばして行きたい。」「沼津・伊豆地域では、オリンピックに向けてスポーツ自転車普及に力を入れているようだ。」とのコメント。

『家電』…「4K テレビ衛星放送が12月より開始される。最先端の映像技術により、従来実現出来なかった色彩豊かな表現が可能になることで幅広い分野での活用が期待でき、今後のテレビの変化に注目される。」との情報。

『金物・荒物』…「現在、静岡県東部に於いて、家庭用金物店（雑貨店は除く）が殆ど無くなって来ている。週末になると市外（沼津・三島等）からの来客がある。SNS 発信により市外からの来街者が増えているため、商店街全体での集客に努めたい。」との声。

『その他』…「今夏、富士宮市と富士宮市観光協会が誘致し、浅間大社周辺で買い物が可能な金券付きの富士登山ツアーが実施され、多大な成果を出したとの新聞記事を読んだ。果たして富士市の行政は他市に誇れる取組はあるのだろうか。「中心市街地活性化委員会」にも参加しているが、これも他市に比べると大きく遅れを取っているようだ。もっと危機感を持って臨んで欲しい。」との意見。「『北海道商店街新報』の取材に応じた。全国的に地方商店街の青年部は壊滅状態との事。吉原商店街はYWC（よしわら若旦那クラブ）が、活発な活動をしていると一面全体に取り上げて頂いた。殆どのイベントの企画・運営の実行部隊で、メンバーは8名だがその半数の4名が「あなたも商店主」空き店舗対策にて出店したメンバーである。「次世代のまちづくりリーダー」として育てており、商店街にとってやる気のある若手育成にも繋がる大きな一因となっている。」とのコメント。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	20.0	26.7	53.3	▲33.3	上 昇
売上高	26.7	26.7	46.7	▲20.0	上 昇
採 算	26.7	33.3	40.0	▲13.3	上 昇

## 【サービス業】 景気ムード…【厳しい状況】

『飲食』…「今夏は猛暑や度重なる台風のため、売上（客数）が減少したが、秋から冬にかけて昨年並みになると予想。」「猛暑による農水産物の不作・不良が価格上昇と共に心配。特に秋口の野菜が不足の可能性がある。」との声。「富士本町商店街の駅前周辺は飲食店が集中しているが、新規オープンやチェーン店のブランド替え等により、競争が厳しくなっている。」とのコメント。

『クリーニング』…「ダストコントロール（掃除用具）の事業所市場は、減少が止まりつつあるが、家庭用市場は減少傾向が続いている。」「売上減少が続く中、燃料・薬品等の高騰が続いており先行不安。雇用については応募があっても入社に繋がらない。」「この時期は家庭で洗える衣料品が多いので売上減少。ガソリン高騰が続き厳しい。」との声。

『運輸・倉庫』…「アメリカの対イラン制裁の影響で、原油不買や円安傾向が続いているため、トラックの燃料である軽油価格も緩やかに上昇している。雇用・人材不足の傾向は今後も続くと思われる。環境に優しいトラックの開発が進んでいるが、トラック購入価格に全て連動する。」「6・7・8月期は、少し出荷が落ちた月もあったが、秋から改善の見込み。」とのコメント。

『自動車整備』…「車の安全性能向上により事故が減少し、入庫件数が減少傾向にある。新車（大型）の特殊車輛の塗装は増加傾向にあり、売上確保に貢献している。」とのこと。

『不動産』…「飲食店部門は過当競争ぎみに推移している。不動産の宅地需要は少しずつ増加傾向にあると思われる。」「市内では、宅地分譲地の増加がみられる。景況の上向きを望む。」「閉店・撤退する店舗はあるが、新規開店の店舗もあるので景気は上向いているのではないか。」との声。「分譲地を各地で目にする。土地所有者の高齢化に伴い、また核家族化により、所有する財産を処分するケースが多い。工業用地の相談はあるが、まとまった土地の確保ができず契約に至らない。」「相変わらず分譲地が増え続けている。空き家・後継者がいない住宅が増え分譲地となっていくが、売れ残る分譲地も多く、業者は在庫を抱え大変になると感じる。」とのこと。「少子高齢化が想像以上に進み、空き家も目立ち始めた。防犯上の理由からも空き家の有効活用など、身近な問題として地域で情報を共有していきたい。」とコメント。

『旅館・ホテル』…「宿泊施設の急増により価格の引下げを余儀なくされ、既存の施設は深刻。スポーツ客誘致のため、富士川河川敷の整備などに旅館組合としても取組んでいるが、行政がどれだけ現状を把握し理解しているのか疑問。」との声。「旅館業は、大手ホテルチェーンの新規出店が加速化し、個々には需要減。観光客・合宿向けに縮小及びリニューアルを検討する。」とのコメント。

『各種学校』…「少しずつだが「価格」に着手し始めている。「価格の見える化」を整え、価格を保っていくことが大切。どのように維持存続を図るか模索中。」との声。

『求人広告』…「販売価格の低下により、売上減、利益減が継続している状況。過当競争も要因の一つ。」「人口減少における若年層の流入対策が早急に必要。」とのコメント。

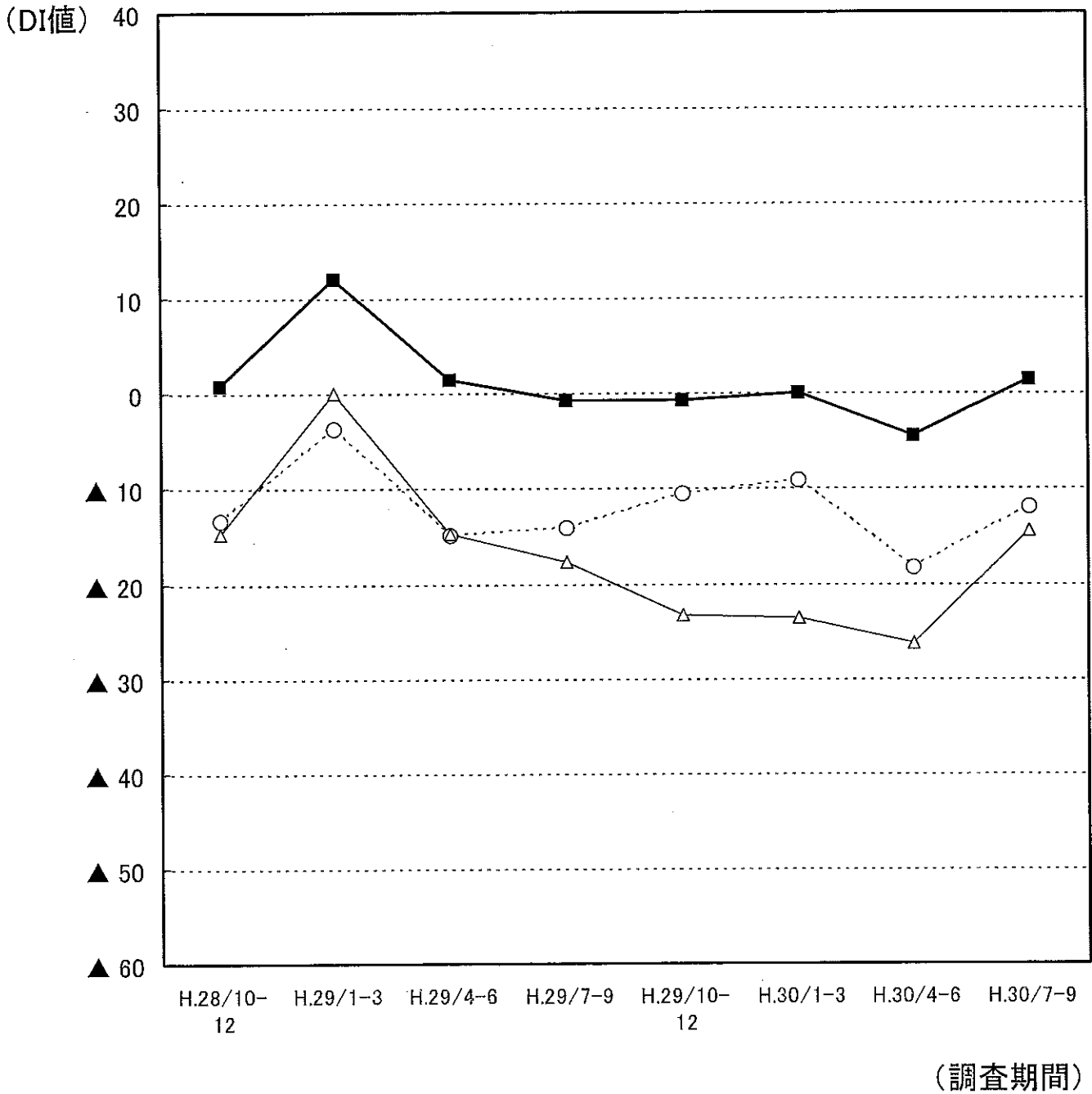
『専門サービス』…税理士事務所では「中小・零細企業の業績が比較的改善されている業界もあるが、飲食業は年々悪化する傾向がみられる。税理士業界としても、事業承継問題も含めて、今後マーケットは必然的に縮小傾向に向かっていくと思わざるを得ず、新たな付加価値を提供する必要がある。」との声。「勝ち組と負け組の差が激しい。作業的業務だけこなしている事業者は競争力がなく、売上単価が大幅に下がっている。勝ち組は、良い顧客を獲得している。この状況は今後も続いていく模様。」とのこと。「幅広い業種から人手不足の悩みが最も多く、その影響で事業廃止・倒産となる可能性があると思われる。」との回答。

『その他』…「トランプ政権の中国をはじめとする各国との摩擦と北朝鮮問題が地方経済の足かせとならなければと願っている。」「新々富士川橋の工事は、順調に進んでいる。新たな橋台の建設が始まり、今後市道の工事が遅れないよう注意しなければならない。周辺道路の沿道では、地価が上昇すると思われる。」「台風のため、富士本町商店街の軽トラ市・楽々市が中止となり残念。」とコメント。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	13.8	51.7	34.5	▲20.7	上 昇
売上高	25.0	39.3	35.7	▲10.7	上 昇
採 算	17.2	44.8	37.9	▲20.7	上 昇

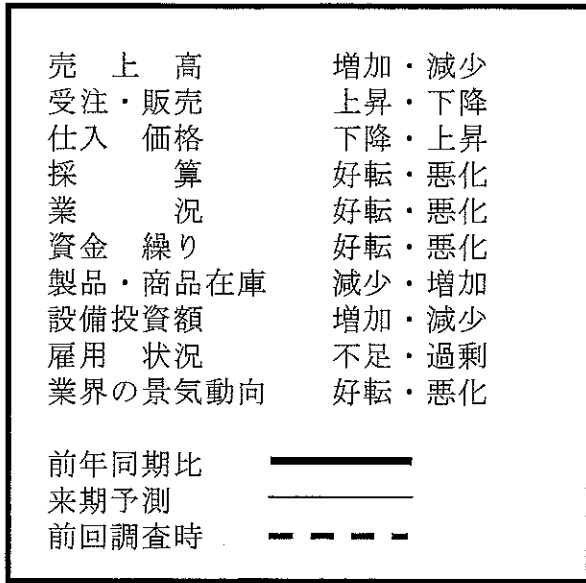
# 全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

—■— 売上    -○- 業況    -△- 採算

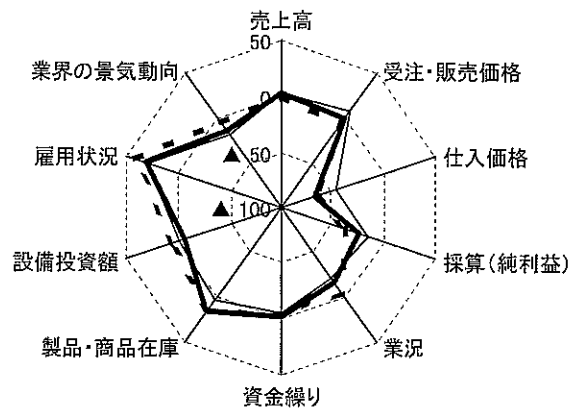




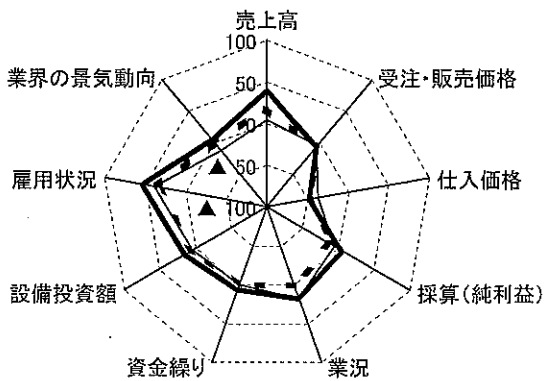
# レーダーチャート



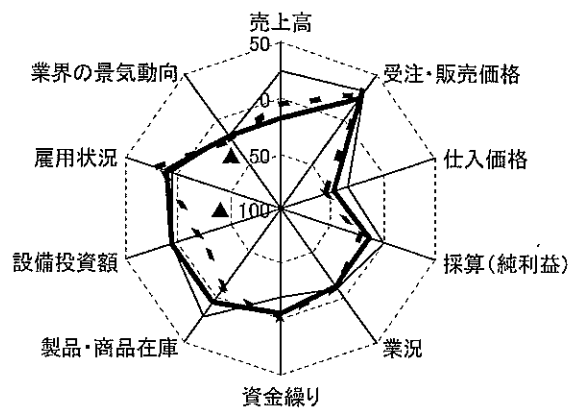
## 【製造業】



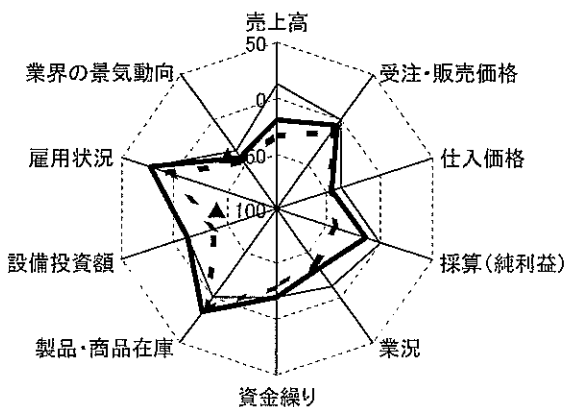
## 【建設業】



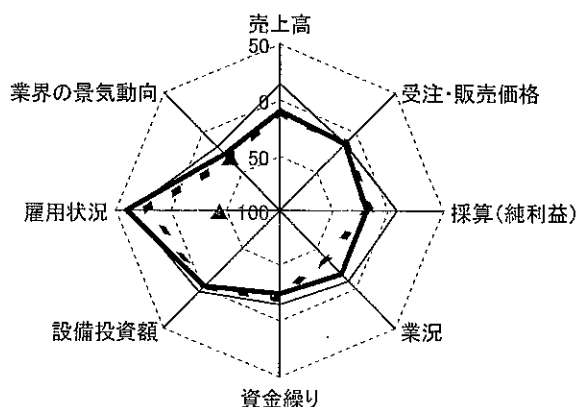
## 【卸売業】



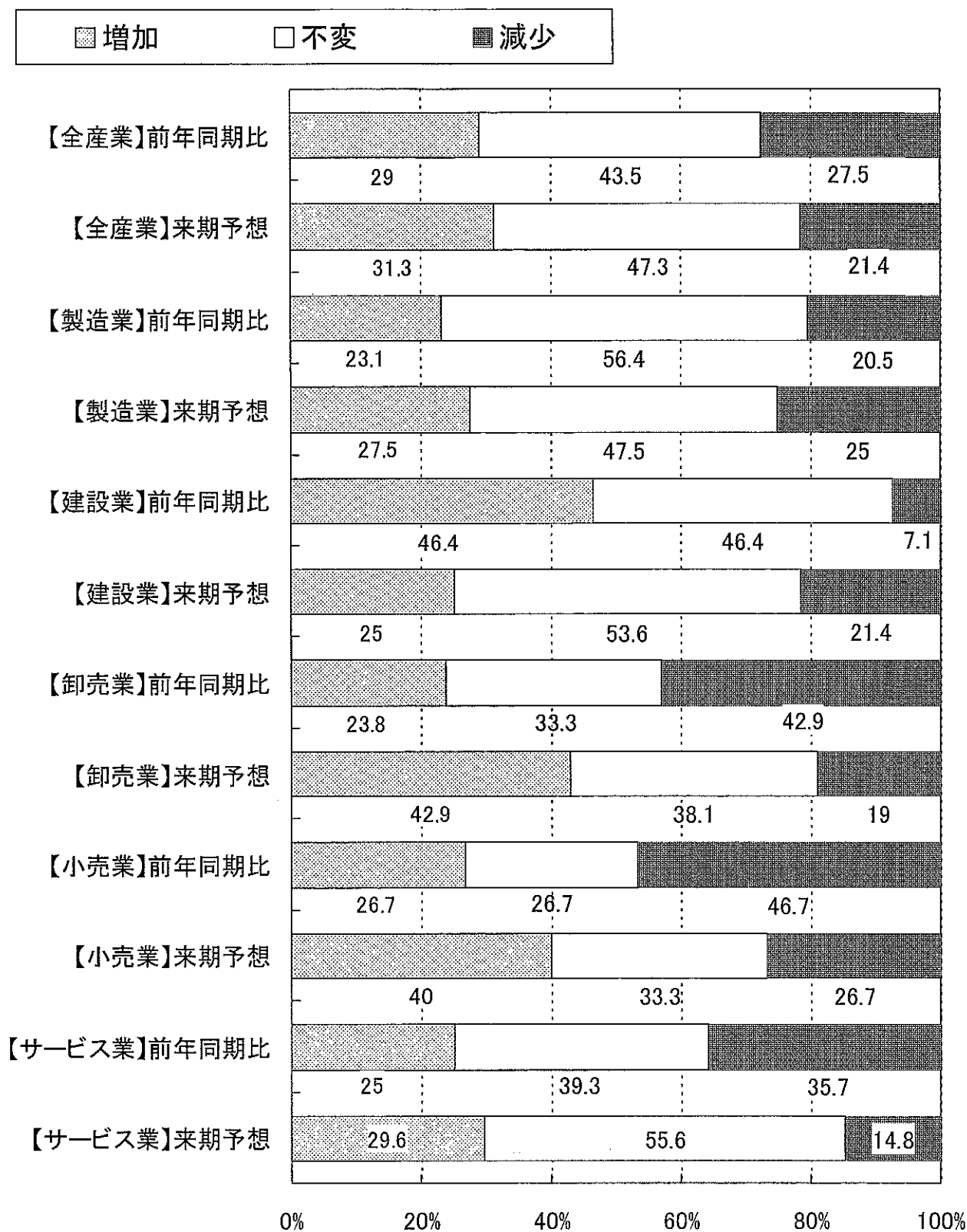
## 【小売業】



## 【サービス業】



# 売上高の前年同期比と来期予測



◇ 経営上の問題点 ◇

産業別	上位回答項目
製造業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇／人材不足／設備老朽化</p> <p>2 位 売上減に伴う利益減</p> <p>3 位 販売価格値上げ難／売上、利益減による資金圧迫／人員不足</p> <p>その他 その他の需要の低迷／過当競争</p>
建設業	<p>1 位 人材不足</p> <p>2 位 人員不足</p> <p>3 位 過当競争</p> <p>その他 人件費高騰／設備老朽化</p>
卸売業	<p>1 位 過当競争／商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 人材不足</p> <p>3 位 販売価格値上げ難</p> <p>その他 設備老朽化</p>
小売業	<p>1 位 売上減に伴う利益減／設備老朽化</p> <p>2 位 売上、利益減による資金圧迫</p> <p>3 位 その他の需要の低迷</p> <p>その他 販売価格値上げ難／商品、原材料仕入れ価格の上昇</p>
サービス業	<p>1 位 設備老朽化</p> <p>2 位 過当競争</p> <p>3 位 販売価格値上げ難／人件費高騰</p> <p>その他 売上、利益減による資金圧迫／人員不足</p>